



第10図 1991年1月22日00UTC イニシャルのCLM RUN (第3図)において海水域の粗度を100分の1に小さくした場合の地上風の12時間予報。
([ : 1 m/s,  : 5 m/s])

第3図と比較すると、確かに海水域ではCLM RUNに比べて風は強くなっていたが、オホーツク海沿岸の地上風向は、海から陸へ向かう風向のまま、CLM RUNと比べて、ほとんど変化しなかった。つまり、CLM RUNとOBS RUNにみられるような風向の予報の違いは、海水域での地表面摩擦(粗度)ではなく、前項で述べた顕熱の影響が主たる原因であると言える。

4. まとめ

JSMにおいて、網走沖の海水分布を月平年分布から実況分布に変えると、オホーツク海岸の地上風向の予報が改善される。

このようなモデル内の海水分布の違いによる地上風向の予報の変化に大きく寄与しているのは、海水の有無や海表面の粗度の違いによる数値実験の結果、地表面の粗度の違いではなく、地表付近の顕熱の動きの違いであることがわかった。

謝辞

本稿において使用した事例では、数値予報モデルの初期値に、気象庁海上気象課啓風丸、函館海洋気象台高風丸、及び札幌管区気象台による北海道西海上での特別観測のデータが利用されている。

また、気象庁数値予報課、瀬上哲秀氏には度々貴重な助言をいただいたり、あるいはデータの作成において御協力いただいた。同じく栗原和夫氏(現、気象研究所)、中村誠臣氏及び楠昌司氏(現、環境庁)にも貴重な助言をいただいた。

以上、ここに記して謝意を表したい。

参考文献

Segami, A., K. Kurihara, H. Nakamura, M. Ueno, I. Takano and Y. Tatsumi, 1989: Operational meso scale weather prediction with Japan spectral model, J. Met. Soc. Japan, 67, 907-924.

日本気象学会および関連学会行事予定

行事名	開催年月日	主催団体等	場所	備考
GEWEX/GAME 国際会議	1995年3月6日 ~10日	日本 GAME 実行計画委員会 タイ国科学評議会	タイ国 バタヤ	東大生産技術研究所 虫明功臣 Fax. 03-3402-2597
気象・海洋のデータ同化に関する国際会議	1995年3月13日 ~17日	WMO (世界気象機関)	気象庁講堂 他 (千代田区)	気象庁数値予報課 平 隆介 Tel. 03-3212-8341
1995年地球惑星関連学会合同大会	1995年3月27日 ~30日	日本地震学会など 8学会	日本大学 文理学部 (世田谷区)	日本気象学会は共催シンポジウムに参加
日本気象学会 1995年度春季大会	1995年5月15日 ~17日	日本気象学会	気象庁, KKR 東京 (千代田区)	
第19回国際理論・応用力学会議	1996年8月25日 ~31日	International Union. of Theoretical and Applied Mechanics (IUTAM)	国立京都国際会館 (京都市)	事務局 渡邊英一 Tel. 075-753-5079